

# いわて思春期研究会ニュースレター

## 第3号

2012年1月15日発行

発行元：〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52 岩手県立大学看護学部「いわて思春期研究会」事務局  
TEL 019-694-2280 (福島裕子) FAX 019-694-2281 e-mail [yhukusim@iwate-pu.ac.jp](mailto:yhukusim@iwate-pu.ac.jp)

## いわて思春期研究会総会・特別講演会が開かれました



平成23年11月6日(日)13:00~16:30



会場:エスポワールいわて 3階 特別ホール

寒中お見舞い申し上げます。本年も思春期研究会をよろしくお願いいたします。

さて、昨年話となりましたが、震災のため延期されていた総会が開かれました。約60名の参加となりました。半年遅れましたが22年度の活動報告と、23年度の活動計画が承認されました。

総会后、震災に関する行政説明と特別講演が開かれ、貴重な情報やお話を聴く機会となりました。以下、その2つについてご報告します。

### 行政説明

#### 「岩手県の被災児童への対応状況」

岩手県児童家庭課 総括課長

奥寺 高秋 氏



奥寺氏は「岩手県の被災児童への対応状況」と題して講演。一般的に言われる「震災孤児・遺児」という表現は、より悲惨さが強調されるイメージがあるとして、県では「被災孤児・遺児」と呼称している。県内の孤児は93人でほぼ確定しており、母子家庭の母親が死亡するケースが半数以上。親族里親の認定を進めつつ、経済的支援の充実や現地での生活相談支援など、県として安定した養育環境の整備に尽力している状況を説明した。

遺児は最終的に500人を超えるとみられ、母子家庭が5割強。父子家庭などでは、各種の支援制度があまり知られておらず、リーフレットを作成するなどPRに努めている。遺児家庭支援専門員の配置は、岩手独自の取り組みという。

被災児童を対象に、民間とも共同してこころのケア研修会を開催。保育所の復旧など、子育て支援を急ぐほか「あそび」の支援にも力を入れている。

課題・問題点として、児童相談所職員の増員、児童精神科医師の確保、被災地で発生したガソリン危機の実態検証などを指摘した。

## 特別講演

「中越新潟地震での子ども達と心のケア」

新潟県立生涯学習推進センター

所長 中島 憲一 氏



中島氏は中越地震被災当時、新潟県小千谷市の塩殿小校長として陣頭指揮を取った。同校は児童22人の小さな学校。発災時は上越市の自宅にいて、まずすべきことをじっくり考えたという。教職員は全員被災者であり、しばらく学校に集めず自らは校長室で寝泊まり。避難生活が長引くうちに、子どもたちに話しかけても目が集まらなくなってきたのに気づき、体を動かすことで意欲を高めようと学校周囲のジョギングを開始。スキーにも力を注ぎ、地区の大会で全員が20位以内となった。各方面から慰問の申し出があったが、しばらくは受けなかった。「子どもたちが自分で立った実感がなければ、ただ慰められるだけ」と思ったからだという。

子どもたちが真の喜びを実感するのは▽愛されているとき▽褒められているとき▽役に立っているとき▽必要とされているとき—の4つの場面。被災を通し、コミュニティー再構築の必要性を痛感したという。「常に迷いながら進んでいる」としつつ「状況が厳しいのに、無理やり前に進むことは難しいが、今の状況が一段落したら前に進むんだという合意があることが大事」と強調した。

## 参加者の感想

復興はまだ時間がかかりそうですが、子ども達のこころとからだを第一に考えていきたいと思えます。特別講演の内容は具体的で大変わかりやすく、すばらしいメッセージをいただいたと思えます。

震災関連の研修で、とてもタイムリーな内容で勉強になりました。中島先生の講演の中で「厳しい経験から成長すること。つらいことが優しさをつなげることで身につけていける」という言葉がとても心にしみました。子ども達が成長していく中でのかてになるように私達がサポートできればと思っています。

## お知らせ

平成23年度 第3回研修会 を開催します

日時:平成24年2月5日(日)13:00~16:30

場所:エスポワールいわて 3階特別ホール

講師:山懸 然太郎 先生 (山梨大学大学院社会医学講座 教授)

\*国の「健やか親子」策定委員長

会員以外の方も参加  
できます。

詳細は研修部からの  
案内をご覧ください